

令和6年度 旭川歯科学院専門学校
学校自己評価結果報告書（集計）

令和6年7月10日

1. 学校の教育目標

<教育目標>○良き社会人を目指す ○豊かな心を磨く ○歯科衛生士としての優れた技を磨く
<基本方針>*具体的な方策
重点目標 学習指導・実習・実技及び行事などあらゆる学習活動において、謙虚さを育み、気節を鼓舞し、創造への意欲づけを図る。
経営計画 職員全員が学校経営に積極的に携わり、個々の意見が反映する機運を尊重する。

2. 本年度の重点課題（目標及び計画）

1 教育 合格率100%（国家資格） 就職率100%
2 コロナ感染発生に注意を払いながら、地域社会との密接な連携を保ち口腔衛生の普及に尽力し、積極的な社会貢献に努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 建学の趣旨と教育の方針（教育理念・目標）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・学校の建学の趣旨と教育の方針は生かされているか。	4	3.2	3	2	1	3.4	3.3
・将来的展望を踏まえて学校の将来構想が描かれているか。	4	3.1	3	2	1	3.3	3.1
・学校の建学の趣旨・教育の方針・将来構想は学生・保護者等に周知されているか。	4	3.4	3	2	1	3.1	3.0

① 課題

- ・ 謙虚・気節・創造を現代的に説明すること。
- ・ 学生数確保が困難な場合の対応について、今後、体制、定員数の検討が必要になる可能性がある。
- ・ 優秀な学生を入学させるための検討、工夫が必要になる。
- ・ 学校の建学の趣旨等は、遠い将来については難しいが、在学期間内においてはある程度知っていると思う。機会あるごとに周知していきたい。
- ・ 少子化、社会的変化に伴い学生数確保ができない時にどうするか、社会的ニーズを常に考え、それに対する教育内容の検討、地域社会との密な関りを積極的に行う。
- ・ 合格率100%に向けたサポート。
- ・ 旭歯管内での就職率向上。
- ・ 学生の人数確保及び質の確保。
- ・ 学生が入学時に本学建学の趣旨・理念に価値を見出せているか。
- ・ 教育方針の学生及び親への周知。

② 今後の改善方策

- ・ DHについて、今後さらなる啓発をしていくためにも、OC時に保護者にも参加できやすくするように工夫していく。
- ・ DHという職業が認知されつつあるが、今後さらなる啓発、会全体で活動していく。中止していた学校祭を今年7月に再開する。
- ・ 早期から国家試験対策が必要。
- ・ 選抜ができるような応募数の確保。
- ・ 歯科衛生士という職業に対する啓蒙や、社会的意義の発信力を向上させる。
- ・ HPの活用、DHの職業的認知の啓蒙活動。

③ 特記事項

- ・ 令和7年1年生から、新カリキュラムに変更予定。

(2) 学校経営方針 (学校運営)

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←一昨年
・教育理念・目標に沿った学校経営方針が策定されているか。	4	3.2	3	2	1	3.4 3.2
・学校経営方針に基づき、組織は有機的に機能しているか。	4	3.1	3	2	1	2.9 3.1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3.4	3	2	1	3.3 3.2
・地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか。	4	3.3	3	2	1	3.3 3.2
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3.3	3	2	1	3.3 3.3

① 課題

- ・ 会立の学校として、学校運営・活動に対し、一般会員の皆さん方の理解・協力・参加を積極的にしてほしい。
- ・ 講師・実習受け入れなど、一部の先生の協力には深く感謝している。
- ・ 管理職、教員、事務職員の連携が取れてきた。全員で問題点を共有し、解決する姿勢をしっかりと持つこと。
- ・ コロナ禍での影響は、ほぼ無くなったので、地域への関りを増やしていきたい。
- ・ 職員は、人数的にはほぼ整備された。個々の資質の向上をはかり、組織を有機的に機能させるためにどうするか。
- ・ 教員の給与（ベースアップ）について。
- ・ 物価高騰が継続しているが、給与規定により安定的にベースアップできているか。
- ・ 人的確保、個々の資質の向上。
- ・ 担任業務、授業、実習、補講があり、試験に向けての放課後の練習を 18:30～19:00 近くまででも手当がつかない、給与を改善してほしい。

② 今後の改善方策

- ・ 学内での意思統一、会全体との連携。
- ・ 講習会参加や教員としての習熟度合いによっては、給与のレベルアップを図るなどを検討する必要があると思われる。

③ 特記事項

・

(3) 教育活動 (各学年指導計画)

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←一昨年
・教育理念・目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3.4	3	2	1	3.3 3.1
・カリキュラム (実習等を含む) は体系的に編成され、学習時間の確保が行われているか。	4	3.4	3	2	1	3.3 3.2
・成績評価・単位認定・進級・卒業の基準は明確化されているか。	4	3.2	3	2	1	3.4 3.3
・教育の方針 (人材育成) 達成に向けた授業担当教員を確保しているか。	4	3.1	3	2	1	3.0 2.7
・教員の先端知識・技能等の習得及び指導力育成などの資質向上のための取り組みは行われているか	4		3	2.6	2	1 2.4 2.6

① 課題

- ・ 学生の学力低下により、難しい判断を行わなければならない場面が出てきている。
- ・ 来年4月新入生から、新カリキュラムを予定。
- ・ 経験の浅い教員の教育体制を整え、質の向上を図る。人数的には整った。
- ・ 昨年まで制限されていた校外研修、学会への参加、さらに校内研修の充実。
- ・ 変化する考え方への対応、新しい技術をいかに導入するか。
- ・ 教員のレベルアップ。
- ・ 歯科衛生士=手を動かす技術が必要、という意識が強すぎると思う。卒後の衛生士を見ている、「手を動かしたい」=「できるようになりたい」ばかり。
- ・ 専任教員の知識の誤認を時折認める。
- ・ 人材確保と人材への投資。
- ・ 変化する歯科医療への対応。
- ・ 教員の知識・技術に問題がある。国試対策についても学生の信用が無いとうまく機能していない。

② 今後の改善方策

- ・ 教員の能力向上のために、学校としてますます取り組みを強めたい。
- ・ 校外研修、学会への参加、校内研修の充実。
- ・ 教員の先端知識・技能等の習得及び指導力養成などの資質向上のための取り組みを積極的に行う必要がある。
- ・ 各種奨励金の基準を明確にする必要があると思われる。
- ・ 「知識に基づく技術」の大切さを、教員を含め周知したほうが良い。
- ・ 知識の再確認、up date する機会を設ける。
- ・ 職員研修の充実化及び待遇向上。
- ・ 研修会への参加、校内研修の実施など。

③ 特記事項

- ・ 昨年から検討していた新カリキュラムを近々に道庁へ提出予定。
- ・ 令和6年6月にDH専任教員1名を採用した。

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年	
・ 就職率の向上が図られているか。	4	3.6	3	2	1	3.6	3.6	
・ 国家試験合格率の向上が図られているか。	4	3.4	3	2	1	3.5	3.5	
・ 退学率の低減が図られているか。	4		3	2.8	2	1	3.6	2.8
・ 卒業後の生徒のフォローアップがなされているか。	4		3	2.6	2	1	3.4	2.7

① 課題

- ・ 国試や退学に対しては、職員共通の認識をもって対処しているが、有効な成果が出せないのが現実である。
- ・ 能力の個人差が大きく、1年次から基礎力をUP、学習習慣の定着をいかに図るか。
- ・ 学校になじめない生徒への対応。
- ・ 卒業生のフォローアップ。(2人)
- ・ 学生の質が下がると国家試験合格率の低下につながりかねない。
- ・ 不登校の経験がある学生や現代の社会に増えている病気を持つ学生も多くなってきているので、退学率も増してくるのではないかと。
- ・ 個別指導、卒後教育の充実。
- ・ 卒業生が情報交換できる機会を作る。

② 今後の改善方策

- ・ 国試対策のベースを作り、その学年の成績状況に合わせて、全体で対応していく。
- ・ 個々の把握、悩みに対する寄り添い、生活指導の強化。
- ・ 卒業生に関しては、元担任を中心に、相談があれば対応を迅速にする。
- ・ 模試等を細かく分析、1年次から成績下位の学生に介入し、能力に応じた対応が必要。

- ・ オンライン授業も可能にしたりする。
- ・ 卒業生に関しては、DH 向けのオンラインセミナーもたくさんある中で、そういった情報を HP に張り付けるなどして活用してもらうのもいいかと思われる。
- ・ 細やかな対応が必要になってくると思う。
- ・ 入学時学力定位者への注力。

③ 特記事項

.

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3.6	3	2	1	3.5	3.5
・ 学生の相談に対する体制は整備されているか。	4	3.1	3	2	1	3.2	3.1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3.1	3	2	1	3.2	3.2
・ 学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3.1	3	2	1	3.3	3.2
・ 学生の生活環境への支援は行われているか。	4		3	2.8	2	3.0	2.9
・ 保護者と適切に連携しているか。	4	3.3	3	2	1	3.2	3.2
・ 卒業生への支援体制はあるか。	4		3	2.8	2	3.1	2.6

① 課題

- ・ 個々の学生の環境には差があり、プライバシーの問題等を十分に考慮しなければならない。
- ・ 家庭の経済状況の急激な悪化の時にどうするか。地方学生への配慮を検討。
- ・ 学生の生活環境支援には限界があるが、できる限りの支援は行っている。
- ・ 保護者との連携は、私的要素もあり限界がある。
- ・ 卒業生はいつでも相談可だが、同窓会や衛生士会との連携も必要。
- ・ 経済状況の悪い家庭もあり、就学困難になった時の援助をどうするか。
- ・ 経済的支援。
- ・ 地方学生への配慮。
- ・ 学生の相談は担任任せになっており、負担が大きい。
- ・ 健康管理は検診のみ、特にない。

① 今後の改善方策

- ・ 本会・学校・会員で協力し合う事項であれば、共有できる。
- ・ 会として、返還義務のある奨学金はどうか。(免除規定を含め会員診療所との連携も考える)
- ・ 現在の社会的な状況を考えると、社会全体での貧困層は増えていくと考える。そういった中で専門学校に入学できないといった高校生が増えるのではないかと考える。奨学金・補助金等の検討を幅広く行う必要がある。
- ・ 卒業生への就職先のあっせんなども行って良いと思われる。
- ・ 奨学金・補助金等の検討。

③ 特記事項

.

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4	3.3	3	2	1	2.9	3.2
・学内外の実習実施施設等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3.3	3	2	1	3.0	3.0
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3.3	3	2	1	3.4	3.4

① 課題

- ・ 施設・設備に関しては、財政的な問題がありますので、実習先等へお願いすることが有効では。
- ・ 実習先診療所との連携強化。
- ・ 防災マニュアルの作成。
- ・ 実習先により教育内容に違いがあり、そのバランスをどうするか。その施設の特徴をいかに把握するか。
- ・ 設備投資における優先度が明確化されているか。
- ・ 教職員の業務負担軽減、教育 DX 推進。
- ・ 第二基礎実習室のライトが暗く、アームの動きの悪いものもあり、交換時期に来ている。1F実習室のユニットもすでに廃盤になっており、今後、部品交換ができないものがあるため、計画的にユニット交換も検討していただきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 連携強化、反省会等での問題提起、マニュアル化。
- ・ 将来にわたる設備充実計画を立案する。
- ・ IT 活用、マニュアル化。

③ 特記事項

- ・ 本年3月に模型実習室が整備された。
- ・ 設備の拡充に取り組めたと思う。
- ・ 第二基礎実習室の整備が行われた。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・学生募集活動は適正に行われているか。	4	3.6	3	2	1	3.5	3.2
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3.4	3	2	1	3.5	3.2
・学費等納入金は妥当なものとなっているか。	4	3.4	3	2	1	3.3	3.4

① 課題

- ・ 学生募集活動に関しては、良くやっていると思います。
- ・ 学校訪問、OC、相談会等を積極的に行い、オンラインも活用していく。
- ・ 専門学校、小さな単科の学校の良さをアピール。
- ・ 学生数減少、様々な物価上昇もあり、令和7年4月入学生から、授業料年10万円UPを決めた。
- ・ 少子化が進む中、いかに学生を集めるか。旭歯会員個々の協力が必要。
- ・ 学生募集に関し、他の要素は取り入れられないか。
- ・ 物価高における学費の妥当性。

② 今後の改善方策

- ・ DH、DT会、同窓会との連携を考える。旭歯会員一人ひとりの強い自覚。
- ・ SNS の活用など。
- ・ 学費の引き上げと地方から入学を検討する学生の支援。

③ 特記事項

- ・ 5月から DH 会旭川支部の活動内で、本校のアピールをお願いし了承された。

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 中期的に学校の財政基盤は安定しているか。	4	(3.2)	3	2	1	3.5	3.2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	(3.5)	3	2	1	3.4	3.3
・ 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	(3.7)	3	2	1	3.6	3.5
・ 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	(3.7)	3	2	1	3.5	3.2

① 課題

- ・ 3～4年単位で、財務状況を検討する。
- ・ 学校の財政基盤については、学生数の減少が続けば、将来的に厳しくなっていく。
- ・ 学生数減少が続けば、長期的に経営困難になる。その場合、体制、特に人件費の検討が必要。
- ・ 財政確保
- ・ 今後、学生減が予想されるときに収益減をどのように補填するか。

② 今後の改善方策

- ・ まずは学生数増だが、令和7年4月入学生から授業料年10万円UPする。
- ・ 財政確保に向け資金の運用など検討する必要があると思われる。

③ 特記事項

- ・ DH 専任教員1名増員のため、人件費が上がる。

(9) 地域社会貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 臨地実習等を通して生徒・教員による地域社会貢献を行っているか。	4	(3.3)	3	2	1	3.1	3.1

① 課題

- ・ コロナ禍で制限された活動を再開、地域貢献に対する教職員の自覚。
- ・ 生徒の心構えが足りないのか、やる気がないようにうつる生徒も多くいる。
- ・ 社会貢献のあり方。

② 今後の改善方策

- ・ 教員・学生と共に、春・秋等に町内清掃活動を行う等。
- ・ 教職員の地域への口腔衛生普及に対する意識UPをはかる。

③ 特記事項

- ・ 今年7月から学院祭を再開。
- ・ 子どもから高齢者まで、幅広い啓蒙活動が行われていると思われる。

(10) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←←昨年
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運用がなされているか。	4	3.6	3	2	1	3.7	3.5
・個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか。	4	3.1	3	2	1	3.4	3.1
・学校自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4		3.0	2	1	3.3	2.9
・学校自己評価結果を公開・活用しているか。	4	3.3	3	2	1	3.5	3.3

① 課題

- ・ 問題点は特にない。
- ・ サイバーセキュリティが不十分か。
- ・ 学校自己評価に関しては改善途上。自己評価結果の公開・活用については、活用がまだ十分ではない。
- ・ 個人情報の取り扱いについて、職員一人ひとりに強い自覚が必要。
- ・ 学校自己評価を踏まえた運営方針の決定ができているか。
- ・ 学校評価は実施されているが、すべて、改善されているわけではない。

② 今後の改善方策

- ・ 外部評価委員会を必ず実施し、地域住民との交流会を開催する。
- ・ 一つ一つの問題点を整理検討し、協議を始める。
- ・ 学校自己評価における問題点を整理し、優先度が高いものから改善するための協議を行う。

③ 特記事項

・